

い

ま

日本の

学童ほいくがおもしろい

3月号

『日本の学童ほいく』

普及・拡大ニュース No.300

(2024. 3. 8)

発行：石川県学童保育連絡協議会

〒921-8062金沢市新保本4-66-4

TEL076-259-0620、FAX：272-5220

3月号にも石川県の方が
たくさん掲載されています。
続きは3月号を読んでね！

この『日本の学童ほいく』普及拡大ニュースは石川県学童保育連絡協議会（略称：県連協）が独自に発行しているニュースです。

より多くの方に全国連協の機関誌『日本の学童ほいく』をもっと読んでもらいたい、広げてもらいたいとの願いで作っています。

P63

「保護者と指導員の伝えあい 子どもが安心できる学童保育を」で、小沼紀子さんの記事「伝えあうことで、子どもたちが安心できる場を……」のなかに記された「親子の不安を安心に変えたのは」の部分を読んで、息子（小学二年生）の学童保育初日の出来事を思い出しました。

不安から安心に

太田真琴
石川県金沢市 保護者

読者のひろば

この度の「能登半島地震」のご報告

P68

「令和6年能登半島地震」は、私たちもこれまで経験したことのないような大きな地震でした。県内では、この三年の間に、二〇二三年五月の最大震度六を含め、能登を震源とした地震が多発していました。

ねっとわーく

石川県内の被災した地域の状況について

二〇二四年一月一日、「令和6年能登半島地震」が発生し、多大な被害が生じました。地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

P67

ちよこつとが大好き

中井理恵

石川県金沢市 保護者

毎月、『日本の学童ほいく』誌が学童保育の連絡袋に入っているのを見つけると、「貸して！」と持っていく小学一年生の娘。お目当ては「こどもランド」のクイズや、ちよこつと掲載されている迷路など。
クイズ本を買ってあげてもなかなか読みきらないのに、本誌や新聞にちよこつと載っているクイズやクロスワードパズルは「やりたい！」と、やる気満々

続きは
3月号を
読んで下さい！

おめでとう！
こどもランド
2024. 3
P37

当選おめでとう！

1月号クイズの当選者は

石川県からは
杉森瑞希さん でした。

保護者と指導員に望むこと

ケアマネ代表・富城学院女子大学名誉教授 畑山みさ子

大災害後の被災地の復興にはかなり長い期間がかかることが想定されます。その間に子どもを支援するために大人が心すべきことについて、考えてみましょう。

子ども心の傷は、多くの人が被災した大災害では、子どもも大人も心に大きな傷を負います。とりわけ心の傷を負った子どもは、体や行動の面に変化が現われることが多いためです。たとえば、発熱、頭痛

P70

大災害後の子どもを支援するために

P74

国の情報や全国連協の活動などの紹介ページです。



◇「こどもの居場所づくりに関する指針」などと令和6（2024）年度の予算案が閣議決定されました。

学童保育に関わっては、「運営費における常勤職員配置の改善」の補助基準額の創設が示されました。

詳細は予算が国会で成立した後、実施要綱、交付金要綱が示されるとのことです。

◇2023年度の全国の学童保育の実施状況調査の結果がまとまり、記者発表しました。

全国連協では、毎年5/1現在の実施状況を調査しています。2023年度は、学童保育の数と「支援の単位」は前年度比で増加しています。詳しくは3月号をご覧ください。

次号もおたのしみに！

次号予告 4月号
「特集」
4月 4日 新しい出会い
学童保育

・学童保育に出会う皆さんへのメッセージ 谷口由希子・松田洋介
・4月、新しい仲間と新たなスタートを 指導員
・わが家の4月 思い出・大切にしていること 保護者
・講座 吉田純輝
・食を通じて季節を味わう 高橋比呂映
・出会い楽しい父母会／わたしは指導員／クイズ／まんが／子どものひろば／読者のひろば／ほか

「学童保育の生活づくり」です。 津幡町の指導員さんに 感想を寄せていただきました。

＊学童での放課後は「ただいま」「おかえり」から始まり、毎日の生活を安心安全に過ごす場所として、子ども、指導員、保護者が信頼関係を育んでいくことと改めて確認しました。子ども達の成長として「生活する力」「他者と関わる力」「危険から身を守る力」を育めるようにこれからも関わっていきたいです。

入所したての頃から卒所するまで十分に子どもたちと関わっているのかは、まだ答えは出ませんが、日々生活をしていく場として子ども達と向き合い、課題や方針をたてていきたいと思っているのですが、実際はとても難しいです。しかし、それに向かっていけないといけない仕事です。真摯に向き合いこれからも励んでいきたいと思います。

私のクラブの指導員たちは、日々子ども達の様子を話し合い、関わり、振り返ることを大切にしています。保護者の皆様にも子ども達の成長を実感してもらい、学童に通っていてよかったと思っていただきたいです。そのために、いろんな場面の伝え合いをするためにはどうすればいいのだろうと考えます。それだけ学童での生活が子ども達にとって大切なことと考えています。子ども達にとって学童が居場所になっていたらうれしいなと思います。

あしの子クラブ 川崎



＊保護者の共働きにより学童は子ども達にとって第二の家として認識されている学童クラブ。学童保育は放課後の生活ということで、保護者も安心し子ども達も安心安全でゆったりと楽しく過ごせる場所であり、子ども達の発達段階に応じた主体的なあそびや生活、または学年の異なる異年齢との関わりの中で思いが衝突することもあるが、その時に双方の思いを聞き解決したり折り合いをつけたりする経験が他者と関わる力の育ちになる。

コロナ禍の生活から日常を取り戻しつつある中で、学童でしかできないことやあそびを通して指導員としてまだまだ未熟な私ですが子ども達に寄り添い保護者も子ども達とも信頼関係を築いていく事が大切だと改めて気づかされ再認識しました。

ゆめの子クラブ 森

＊特集を読んで、学童生活の中で子どもたち同士の関わりが子どもたち一人ひとりにとってとても大切だと改めて思いました。仲良しな友達同士だけでなく、おやつの時間や行事など、日々の生活を一緒に送っているからこそさまざまな場面でいつも遊ぶ友達以外の子どもとも関わりがあり、一人ひとりにとって大切な経験になっていると感じました。

私のクラブでは、今4年生の女の子たちが「みんなで仲良くしたい!」と自ら提案し、ほしの子祭りを計画しています。自分たちでゲームを決めたり、他の子どもたちにアンケートをとったり日々の子どもたちの関係を考慮して指導員と一緒に班を作ったり…他の子どもたちも準備をしている姿を見て「どんなんするん?!」「いつするん!その日絶対くるから!」とわくわくしているようです。

クラブのみんなのために子どもたちが頑張る姿を見て、どんなお祭りができるのか私もとても楽しみです。私たち指導員も陰ながらサポートできたらなと思います。

ほしの子クラブ 大道

私たちは、子ども・保護者と指導員が共に行う「子ども一人ひとりと、子どもたちの生活内容を豊かにするための継続的な営み」を、「生活づくり」と呼んで大切にしてきました。

今回の特集では、コロナ禍での学童保育の生活づくりのなかで感じてきたこと、気づいたこともふまえて、これまで私たちが大切にしてきた、子ども・保護者・指導員が共に行う学童保育の「生活づくり」について、あらためてたしかめあいます。(編集部)

P10

毎日の生活の大切さ

大阪大谷大学 長瀬美子

「日々の生活」が
後回しにされていないか

私は、学童保育を業務委託する際の審査に立会うことがあります。その際、夏休みなどに実施する「特別なプログラム」をアピールする事業者、「塾や習い事で行うような内容を体験できる」ことを特色として打ち出す事業者もあります。しかし、「魅力的なプログラム」が提示される一方で、「日々の生活」の大切さが十分に理解されているのかが気になります。学童保育は、保育所や子ども園と同様に、年間約三〇〇日開所しています。小学生の子どもにとっては、学校教育よりも多くの日数を過ごす場所です。だからこそ、毎日の生活が、安全で安心できるものでなければならぬと考えます。本稿では、毎日の生活の大切さと、それをどのようにつくりだしていくかについて述べます。